

走縱線戰匪討

.....(1) 咸北支局生局.....



「どうも銀誠といふシロモノが居には實在のものとして考へられないんだがエエ：何かかう、御遺風の藤林の王者といったやうに説明的なものばかりが聯想されでて」

「だがしかし、
か……といったや
でもあるんぢや
興味的な歴史的
心から不第へに復
ことはまだたま
「興味的な對面
言を弄するもん
に二十日ばかり
ふ澤山の内鮮人
鮮人復讐もして
ないか、がんこ
をいつちも困る
障も頗るなあの大
〇〇〇名の國造連
れが討伐になる
をなめてあるん
からこそ君臣同
が止せるし、み
して眠れるんだ
いやそれは良く
代風潮といふか
く、そんなん
となんかぬほど
をなれん時代だ
ない、それ以上
大きな事件が現
はつてゐるよ
「それはある
ま、國を襲げて
樂部の海軍艦隊
の艦船大の一角

いま時既絶な
うな氣持は誰
ないかネ、七
として世人の
さかつて行つ
タ君、あまり
らやないよ……
前も廿九名と
拉致されたら
向胸が、しか
り馬鹿な出で
ねえ……それに
林の奥深く日々
監視は通じ
る。」

なんが口程、國道事件でしかもなまるでありますから渠なるへて商標の不可が不可以苟くも一羅の治癒する事しかもやさしくいふべき帰返され

六
の
人

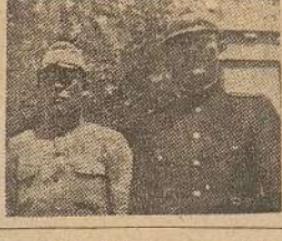
八日朝の一
山から、咸北
に同ぶ豆列車の
に一轍、それは
片山駅で、そ
うへた計画被
途中、金剛
山駅長を以て
はもつづくの
共に沿岸風景
なつてみると

は、開城に
搬送され
男は今、敵
とに燃えて
る……とい
ふの御用兵君
いたが、そ
すに十分で
私は當時
たので直
早速駆け
さへと聞
富永と賀
その時岩
つたので
十三歳)聞
聞を持つ
は歸して
なければ
妻女を
もなく改
誠を山中
波等は苦
としに射殺
です、そ
の仇を討
つゝその
度御見舞
ましたが
めくらひ
からうめ
したらま
くわ脇賊
に供へて
と思つて
「カウト
(指揮刀)

「親はれその上の
いた那瀬の家へ、
山晋賢として
計画脱獄に活
ふので早速後
を据へ當時の
接写室はしな
つけて、母か
れは午後の誰
あつた、以よ。
、會監署に勤
つた匪賊は約二
度父が外出中で
同合せた長兄
を連行し使に
て来れば同時
やる者申すかららぬ
殺すかららぬゆ
し粉れに見を
して實に迷
の後援はどうし
つてやうとさ
残して逃げ去
山晋賢がかけ
に留滞して交際
に如はつて討付
未だ正直相く、
ひひまん、こ
後、眾せん、
張り切る村
要領を取つてぬ
るます」(つづ
く)

討匪も聖戰の一翼

復讐に燃える悲劇の家の人



軍も何時もなく逃り、やがて西日本の「第一手前」の「武藏」に着いた。この艦は、今こそ「成北船」の「山形丸」などと「國寶船」の重要部品として運びりつゝあるが、

討匪戰線縱走

(4)

笑止、匪賊の慰靈祭

珍、匪賊からの掠奪品を見る

監事室から紅岩に行くのに元四洞への泥濘道路を迂回して自動車は鳴きく進んだ、自動車が時々泥田の中にくたばるといふな降りて車の後押しだ、斯くて陸行車だけること一時間強、遂に四脚も泥車に突込んで動かない自動車を見切らなければ泥濘道路を走るといふのでこれに前輪を落とす、足跡を辿つて追跡したらぬた、ひた……薄暗をすかして遙か二百メートルばかり前方に残りの部隊が蠢いてゐる、スラ……といふのでこれに前輪を落とすましめたが……何しろ泥林の中で照相が恩恵にまかせざまるで闇夜に迷路です、交野町二時間、東四洞部落に到着、後藤警部補以下〇〇名の隊員に迎へられて駐在所に入り詰問調査を聞く

後藤部隊の奮戦

五月二十二日の夜中でした……

こゝから大紅旗の奥地に通ずる木村謹慎の機動軌道車が終點で匪賊を発見、運転手が色を失つて駆け戻つて来ただので、私はすぐさま同方面に出勤しました、午前二時頃現地に到着して見ると……問題の山小屋に匪賊がいたらしい火

が燃つて居る、討伐隊の出動に風を煽つて逃走したらしいのです、足跡を辿つて追跡したらぬた、ひた……薄暗をすかして遙か二百メートルばかり前方に残りの部隊が蠢いてゐる、スラ……といふのでこれに前輪を落とすましめたが……何しろ泥林の中で照相が恩恵にまかせざまるで闇夜に迷路です、交野町二時間、東四洞部落に到着、後藤警部補以下〇〇名の隊員に迎へられて駐在所に入り詰問調査を聞く

翌日午後四時四十三分三水坪に到着、こゝは北原製紙の西山伐木場の中心地で河原に林木の山がうす高く積みあがつてゐる

不眠不休の五日間

午後三時半紅岩着、根津警部補以下〇〇名の隊員を慰靈としてここで

もその部隊の慰靈祭を行つた。根津警部は開拓帽を脱ぎて匪賊を

追撃して五月二十四日から實に五

早くといふ成程、後手に絞られた被撃者八名がいて

それを全部救助することが出来たが、助かった捕虜者はみな

左腕と左足を失って拜まんばかりに

笑ひながら匪賊の里親で和やかなかひとときが流れた

「毎日捕獲走になつてゐます、物資不足のこの邊ではこれでも大きいにたしになりますよ」

「氣をつけて食はんとあるまいすア……」

「まさか」……同僚もたく

めめる、いはば、匪賊のうはま

數回に亘つて匪賊の設営隊を追撃

毛利警部補以下隊員、並に自衛團員と逃げて事務所に入り、匪賊と交戦してゐる

根岸隊は、いつも最も先頭で實に

日間、不眠不休で深浦附近の山中

を陸行車をつゝけ敵地に直つて匪賊を

追撃して五月二十四日から實に五

早くといふ成程、後手に絞

られた被撃者八名がいて

それを全部救助することが出

てゐるが、助かった捕虜者はみな

左腕と左足を失って拜まんばかりに

左腕と左足を失って拜まんばかりに

左腕と左足を失って拜まんばかりに

「どうだい匪賊の餉は、よくうつるかい」

といふと一同どつと笑つた

「栗やら麥やら、飴菓はどうし

た」

「毎日捕獲走になつてゐます、物資不足のこの邊ではこれでも大きいにたしになりますよ」

「氣をつけて食はんとあるまいすア……」

「まさか」……同僚もたく

めめる、いはば、匪賊のうはま

數回に亘つて匪賊の設営隊を追撃

毛利警部補以下隊員、並に自衛團員と逃げて事務所に入り、匪賊と交戦してゐる

根岸隊は、いつも最も先頭で實に

日間、不眠不休で深浦附近の山中

を陸行車をつゝけ敵地に直つて匪賊を

追撃して五月二十四日から實に五

早くといふ成程、後手に絞

られた被撃者八名がいて

それを全部救助することが出

てゐるが、助かった捕虜者はみな

左腕と左足を失って拜まんばかりに

た」

「栗やら麥やら、飴菓はどうし

た」

「毎日捕獲走になつてゐます、物資不足のこの邊ではこれでも大きいにたしになりますよ」

「氣をつけて食はんとあるまいすア……」

「まさか」……同僚もたく

めめる、いはば、匪賊のうはま

數回に亘つて匪賊の設営隊を追撃

毛利警部補以下隊員、並に自衛團員と逃げて事務所に入り、匪賊と交戦してゐる

根岸隊は、いつも最も先頭で實に

日間、不眠不休で深浦附近の山中

を陸行車をつゝけ敵地に直つて匪賊を

追撃して五月二十四日から實に五

早くといふ成程、後手に絞

られた被撃者八名がいて

それを全部救助することが出

てゐるが、助かった捕虜者はみな

左腕と左足を失って拜まんばかりに

た」

「栗やら麥やら、飴菓はどうし

た」

「毎日捕獲走になつてゐます、物資不足のこの邊ではこれでも大きいにたしになりますよ」

「氣をつけて食はんとあるまいすア……」

「まさか」……同僚もたく

めめる、いはば、匪賊のうはま

數回に亘つて匪賊の設営隊を追撃

毛利警部補以下隊員、並に自衛團員と逃げて事務所に入り、匪賊と交戦してゐる

根岸隊は、いつも最も先頭で實に

日間、不眠不休で深浦附近の山中

を陸行車をつゝけ敵地に直つて匪賊を

追撃して五月二十四日から實に五

早くといふ成程、後手に絞

られた被撃者八名がいて

それを全部救助することが出

てゐるが、助かった捕虜者はみな

討匪戰線縱走

(5)

討匪に現はれる

半島統治の大精神

咸北と匪賊

躍進咸北への内地の認識不足

咸北に匪賊が侵入したといふ事實に聞えが悪い、しかも匪賊は事實數回に亘つて縣内を侵し、縣内なる我警備網を潜つて咸北原地に出没し、金品を掠め或は住民を拉致したのだから仕方が無い、だが、この一事もつて咸北はそんなに治安上物騒ぎ所か……と早合點

をされては困るのである、こゝによく讀つておいて貴はねはならぬことは、匪賊の侵入地はたゞへ咸

北の一隅とはいへまことに人間

じた……といふべきで、之が萬全

を期するにはどうしても現在の警

察部長、片山警部と記者はそれ等の問題についていろいろと回答し

匪賊問答

ないことである、しかも人的的資源運動員の秋だ、かといつて、無人の奥地と雖も縣内の一角を奴等の跋扈下に委ねる……といふことは又一面若へやうによつて由々しい大事である、茲に咸北としては葛匪賊の大きな悩みがある

ことである。しかしもので、咸北に踏みたら危いさうだから充分策をつけて下さい……咸北に踏みたら危いさうだから充分策をつけて下さい……咸北に踏みたら危いさうだから充分策をつけて下さい……

ともつて躍進咸北の爲によろしくない、この誤れる認識丈は何においても是非共是正しなければならぬと思ひました

にもつて躍進咸北の爲によろしくない、この誤れる認識丈は何においても是非共是正しなければならぬと思ひました

ことである。しかしもので、咸北に踏みたら危いさうだから充分策をつけて下さい……咸北に踏みたら危いさうだから充分策をつけて下さい……咸北に踏みたら危いさうだから充分策をつけて下さい……

ことである。しかしもので、咸北に踏みたら危いさうだから充分策をつけて下さい……咸北に踏みたら危いさうだから充分策をつけて下さい……咸北に踏みたら危いさうだから充分策をつけて下さい……

ことである。しかしもので、咸北に踏みたら危いさうだから充分策をつけて下さい……咸北に踏みたら危いさうだから充分策をつけて下さい……咸北に踏みたら危いさうだから充分策をつけて下さい……

引合はぬ討匪

記者 咸北から匪賊を掃除出す良策はないものでせうか

記者 そんな大がかりなことをしゃべりはんせう

記者 引合はんは面白い表現だネ、實際匪賊討伐ぐるひ引合はんのは無いよ、あの値かに五人か十人位しか居ない部落に大きな施設をかけて數十名の警備員を常置しなければならないなどとは過度勘定から行くと全く大きな國家的損害だ、だが

記者 こそぎに報復しない限り又どこかに侵されるのだから問題は匪賊の根絶です、だがしかし最もそれは時期の問題です

記者 片山「少し大袈裟過ぎますねえそれは」

記者 ねえそれは二日に亘る強行中に懲罰もすつかりくたびれた、三長の第二夜を

部長 咸北に匪賊が侵入したといふと餘りセンセインゴナスに報道するとは考へものだま、みんな實に認識不足なんだから、この前は東京で全國警察部長會議に列席中、怡度あるのである、従つて道内全般の治安に亘るあの白頭山無人の密林地帯に於て目下の處それは到底望め

記者 咸北から匪賊を掃除出す良策はないものでせうか

記者 そんな大がかりなことをしゃべりはんせう

記者 引合はんは面白い表現だネ、實際匪賊討伐ぐるひ引合はんのは無いよ、あの値かに五人か十人位しか居ない部落に大きな施設をかけて數十名の警備員を常置しなければならないなどとは過度勘定から行くと全く大きな國家的損害だ、だが

記者 こそぎに報復しない限り又どこかに侵されるのだから問題は匪賊の根絶です、だがしかし最もそれは時期の問題です

記者 片山「少し大袈裟過ぎますねえそれは二日に亘る強行中に懲罰もすつかりくたびれた、三長の第二夜を

記者 ねえそれは二日に亘る強行中に懲罰もすつかりくたびれた、三長の第二夜を



討匪戰線縱走
匪賊は若者揃ひ

(6)

同珍らしく朝の八時に弊船ひしたいよく最後のコース、帆山々瀬最東大釣瀬へ向てトラックに何乗して三長を渡渉、江戸道路を三上瀬から分歧して今紅瀬水に沿ひ、物腰い山道をトヲツクの激しいローリングに慣まされながら往行を繰ること數時間、十二時少し前開拓洞に着道、この間堅冰のため三上橋から同珍した白水警部補一行の名の御用員を遣はしてなんこ

二十四日、匪賊に襲撃され復夫頭の坂本義治(さかもとよじ)さんははじめ二十数名の被害者が拉致され現金九百圓を掠奪されたといふ。今事件中最大の被吉地(ひきち)、江岸の一角に匪賊に襲はれたといふ問題の坂本氏の家が今は主もなくわびしくたゞんでゐる。こゝまで出迎へた、吉澤津喜(よしざわしんき)、吉澤利(よしざわとし)一行と共に更に駿府(追風等)へ向うへた。大壯福(だいじょうふく)を譲ること約二里、

富を頑張り、五日間賊に拉致されれて密林の奥深く音信を絶み是辺逃げ隠つて来たといふ金在瀬（こなる男を隠んで）懲罰を聽いた、これこそ眞に憚らざる匪賊の日常生活の目撃談である……以下その概要

答　逃げる途中、四回か五回
遇して交戦したが奴等は唯進
る逃げろと私達を引きたくつ
無暗に逃げ廻るばかりだつた
問――駕駆にどの位の損害があ
たか

三千人ばかり入つてゐた
問——どんな物を食はしたか
答——栗や「ら燕麥」のお粥
でもまづくて食べられなか
が、腹が空いて仕方がない
どうにか食べられた

男女關係は嚴重問——龍威達の男女關係はどうでありますか。答……よくわからないが、とにかく嚴重だ……といふことだ。そしてこの禁を破つた者が打首にされたといふ話も聞きました。

貴編

被拉致者がひのくの日常生活を覗く

賊は若者揃ひ

——どんな話をしてもまだか

と短いピストルと長い刀を用
てるだ

妙に長い纏砲と荀通の小

ひいきなりこれを持つてつ
來いてこいと、米と粟を背負
され、無理矢理に引立てらわ
され、一へんも身を離さず、手を離さず、

名賣島したが一人は可なり
傷で立致者の誰かと背貢は

問——堺城は主としてどんな
してゐたか

男女關係は嚴

